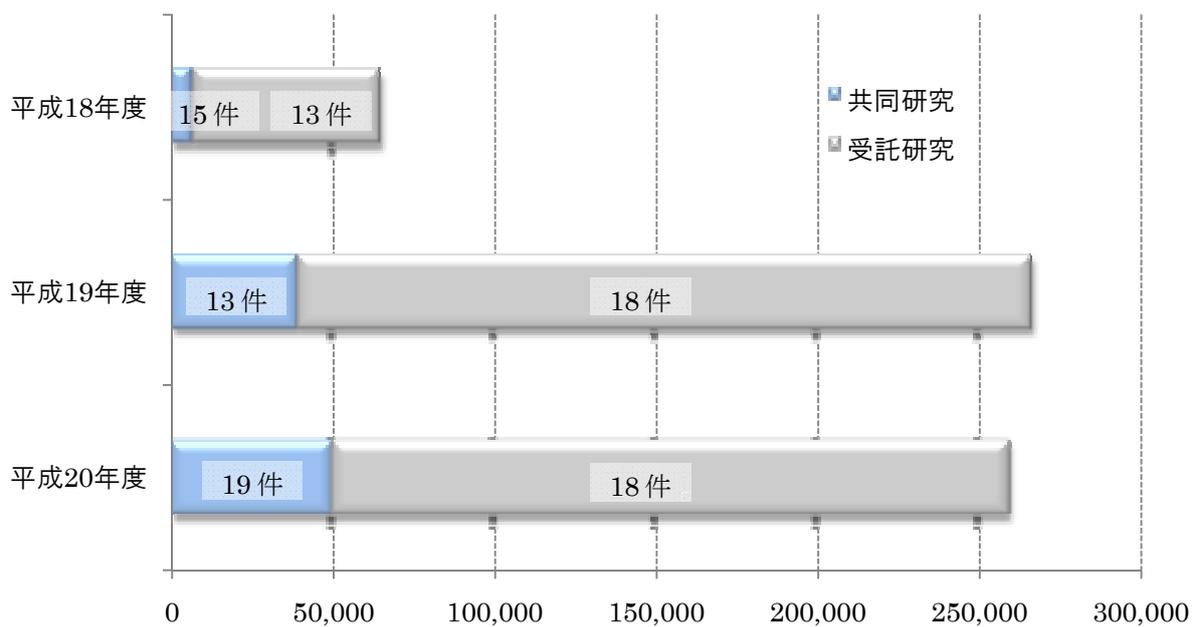


2. 活動実績

産学連携・地域連携

(1) 共同研究・受託研究



＝共同研究・受託研究 受入研究費の比較＝

※共同研究の契約件数には、受入研究費の無いものも含む。

当センターでは、産学官連携コーディネーターが中心となり、札幌医科大学の研究水準の向上と社会貢献の促進として共同研究・受託研究の推進を図っております。

また、共同研究・受託研究の受入、契約書締結、研究費執行を一括して行っており、平成 20 年度は、共同研究 19 件、受託研究 18 件、合計で 37 件の研究契約を締結し、その研究費 259,326 千円の執行を執り行いました。

(2) 寄附講座

寄附講座は、産学連携の推進や奨学を目的とする企業などからの寄附金を基に、本学の学術研究活動の進展と充実を目的として設置されるもので、平成21年3月現在、株式会社アインファーマシーズによる「緩和医療学講座」と日東電工株式会社による「分子標的探索講座」が設置運営されています。

寄附講座の概要

【緩和医療学講座】

◇寄附者

株式会社アインファーマシーズ

◇設置期間

平成20年4月～平成25年3月
(5年間)

◇寄附予定総額

150,000千円



緩和医療学講座開講式(平成20年5月19日)

【分子標的探索講座】

◇寄附者

日東電工株式会社

◇設置期間

平成20年5月～平成23年3月
(2年11ヶ月)

◇寄附予定総額

150,000千円



分子標的探索講座開講式(平成20年7月15日)

緩和医療学講座の1年をふりかえって

札幌医科大学緩和医療学講座 講師（兼任）

札幌医科大学医学部麻酔学講座 講師

川股 知之

1. 緩和医療学講座の開設

札幌医科大学の緩和医療学講座は並木昭義担当教授のもと平成20年4月に本学最初の寄附講座として開設され、5月19日に開講式が開催されました。緩和医療学講座研究室は保健医療学部棟1階にあります。教員スタッフは2名の麻酔学講座との兼務教員と3名の特任助教よりなっております。本講座の目的は緩和医療の現場における治療やケアを単なる経験的ではなく科学的根拠に基づいた学問、すなわち緩和医療学としてとらえて実施することにより、緩和医療の普及と進展を図ることです。この目的を達成するために、教育・研究・社会貢献を3つの柱としました。教育の目標は、緩和医療に携わる人材の育成、学生教育、医療者・一般市民への啓発活動の推進です。研究の目標は、患者QOLを高めるための心身両面からの臨床研究、およびがん疼痛機序解明と橋渡し研究です。社会貢献では、ホームページ立ち上げによる教育・研究成果の公開、および情報とサポート提供の場の開設を目標としました。これらの目標を達成するためには多方面からのアプローチが必要であり多職種専門家が関わることにより充実し発展すると考え、医師1名に加え、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士の2名を特任助教として教員スタッフを構成しております。

2. 平成20年度の活動

(1) 教育

教育として、学生教育、緩和医療に携わる人材の育成に力を入れてきました。今年度は学部教育では麻酔学講座・精神医学講座と連携し、医学部4学年の「緩和医療学」を講座員で6講担当しております。知識の習得とともにがん患者様に講演していただくなど緩和医療への興味・動機付けに重点を置き講義を行っております。また、卒後教育として医療者の緩和医療の普及と発展を目的に、厚生労働省健康局長通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づく緩和ケア研修会を3月14、15日に当学で開催しました。さらに、がん診療連携拠点病院と連携し、道内各地で研修会を開催しております。今後は、がんプロフェッショナル養成プランと連携し、医師大学院コースの「緩和医療学」の教育にも携わる予定です。

(2) 研究

臨床研究では緩和ケア管理室と連携し、造血幹細胞移植患者のQOLに対する臨床心理士カウンセリング介入の効果を検討しております。また、講座に設置された「患者・家族相談サロン」を中心に医師と患者・患者家族間のコミュニケーションに関する研究およびグリーフケアに関する研究を開始しております。また、基礎研究では、がん疼痛の機序と新たな治療法開発および化学療法による末梢神経障害の治療法に関する研究を麻酔学講座と連携して行っております。

(3) 社会貢献

講座の活動を公開すること、また、緩和医療に関する情報を医療者・一般市民に発信するためにホームページを開設しました (<http://web.sapmed.ac.jp/kanwa/>)。さらに、患者様・ご家族が気軽に立ち寄れる場所として「患者家族サロン」を開設しました。サロンでは緩和医療・ケアに関する情報を提供すること、患者様・ご家族の相談、グリーフケアを行い、患者様・ご家族をサポートすることを目的としております。平成20年度はのべ804名に訪問していただいております。今後はホームページ、サロンのみならず、他施設と連携を深め、患者様・ご家族を支える地域、社会ネットワーク構築を目指しております。

緩和医療は患者の苦痛の症状をコントロールすることで患者様・ご家族のQOLを上げていくことです。緩和医療の知識、技術は臨床に携わるものにとって基本的かつ重要なものです。緩和医療はこれから患者様・ご家族そして国民から最も求められるものになると考えております。今後、当講座の活動、活躍が当大学だけでなく北海道の緩和医療の充実、発展に貢献していくことを目指しております。

寄附講座開講時から担当教授を務め、講座立ち上げと基盤作りにご尽力いただいた並木昭義教授の退官に伴い、平成21年度からは放射線医学講座の晴山教授が担当教授となっております。今後とも当講座へのご協力ご支援を宜しくお願いする次第です。

2008年

4月

- ・緩和医療学講座開催



5月

- ・開講式



- ・患者・家族サロン開設



7月

- ・ホームページ開設



- ・院内緩和ケア勉強会 1
「グリーンケアとは」開催

10月

- ・「がん患者さまのご家族の会」開催

11月

- ・「がん患者さま・家族のためのよろず相談会」開催

12月

- ・「アロマセラピー講習会」開催
- ・「編み物の会」開催（12月より月2回定期開催）

2009年

1月

- ・「コラージュセラピー」開催

3月

- ・院内緩和ケア勉強会 2
「IV-PCAによる術後痛およびがん疼痛管理」開催
- ・緩和ケア基本研修会開催
- ・緩和医療学講座一周年記念公開講座開催

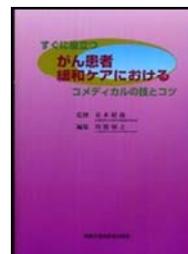


特別講演
垣添忠生 国立がんセンター名誉総長



2008年度出版物

1. 「すぐに役に立つ がん患者の症状コントロール
に用いられる薬の使い方と注意点」
並木昭義監、川股友之編
東京、真興交易(株)医書出版部 2008年
2. 「すぐに役に立つ がん患者緩和ケアにおける
コメディカルの技とコツ」
並木昭義監、川股友之編
東京、真興交易(株)医書出版部 2009年



(3) 寄附金

■ 寄附の受入れについて

寄附の種類に沿って医学教育、学術研究等のため、法人や個人の皆様へご支援をお願いする寄附金（奨学寄附金）には、次のようなものがあります。

- ① 用途を特定しない寄附（一般寄附金）
- ② 用途を特定する寄附（奨学寄附金）
 - ・ 学術研究のためのもの
 - ・ 学生支援のためのもの
 - ・ 教育研究奨励のためのもの
 - ・ その他（寄附者の意向等）

平成 20 年度における寄附者別寄附金受入状況

○企業関係	375 件	325,050 千円
○医療法人等	162 件	52,254 千円
○財団法人	8 件	6,149 千円
○学校法人等	13 件	4,696 千円
○個人	66 件	34,142 千円
○団体	9 件	8,881 千円

■ 寄附金の使途

奨学寄附金の 90%を直接経費として、医学教育研究、研究旅費、学術研究に必要な機器や消耗品等の研究費の財源として、学術・教育研究の発展に役立っております。

また、残りの 10%は間接経費とし、そのうちの 5%は学術振興事業を推進するための寄附金事業費として、ならびに寄附金事業全体に係る管理運営上必要な諸経費として賄われております。

□ 寄附金（直接経費）の執行

講座等へ配分する寄附金については、本法人会計規程に基づき、必要な研究経費について、経理（出納）・総務（管財）と連携し、適切に執行されております。

□ 寄附金による学術振興助成事業について

平成 20 年度から寄附金による本学研究者等への学術振興事業の応募を開始すると共に、学術助成金の第 1 回交付を実施いたしました。

内訳は右のとおりです。第 1 回目の 20 年度におきましては、83 件約 2,111 万円の学術振興のための助成金を執行いたしました。

来年度以降も継続し札幌医科大学の学術振興に役立てたいと考えております。今後とも皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。

教育研究	44 件	10,326 千円
学術集会・国際交流セミナー	12 件	3,290 千円
研究者等海外派遣・受入	5 件	1,770 千円
国際交流懇談会	1 件	50 千円
公開講座等開催	21 件	5,674 千円

寄附金担当部門

電話 011-611-2111

内線 2228,2229,2172,2178

F A X 011-611-2185

E-mail: kihukin@sapmed.ac.jp



市民公開講座の様子

(4) 連携協定等

① 公立はこだて未来大学

公立はこだて未来大学と包括連携協定調印

平成20年9月12日（金）に「公立はこだて未来大学・札幌医科大学連携協定調印式」を札幌医科大学において開催しました。

大学間の包括連携協定としては、小樽商科大学、北海道医療大学、室蘭工業大学について4番目となります。

この協定は、両大学が共同で研究、教育、地域貢献を展開していくための基本となるもので、より具体的には患者の視点・立場に立脚した情報支援・案内システムを構築することを目的としております。

今後は、その実施例として院内案内システムの充実や医療機関と自宅の情報共有ネットワーク、病院間ネットワーク等の構築を図ることとしています。



② 別海町

別海町と教育連携協定調印

平成21年3月20日（金）に「札幌医科大学と別海町との教育連携協定書調印式」を別海町町役場にて開催致しました。

本学はこれまで、文部科学省現代G P「地域密着型チーム医療実習」、特色G P「学部一貫教育による地域医療マインドの形成」の取組等を通じ、別海町において、医学部と保健医療学部の学生が共同して行うチーム医療実習や、本学の教員による市民向けの公開講座等の取組を進めて参りました。今回締結した本学と別海町との「教育連携協定」では、これまでの取組を踏まえ、別海町における市民向けの公開講座、中・高・大連携教育、チーム医療実習、遠隔医療等を推進することを目的としております。

本学が市町村と連携協定を締結するのは今回が初めてとなります。



③ 北海道医療産業研究会

平成 20 年 7 月 18 日、札幌医科大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、北海道立工業試験場 が連携して設立。

本研究会は、本学及びその関連病院などの医療現場からのニーズを発掘し、地域のものづくり、IT 企業等との産学連携により新製品、新サービス開発を支援し、北海道の医療産業の活性化を図ることを目的としております。

平成 20 年度は、北海道中小企業家同友会産学官連携研究会（HoPE）の産学官連携推進事業による補助を受けて 3 回のセミナーを開催いたしました。セミナーでは、「医療関連産業への進出のポイントを探る」をメインテーマに、本学教員をはじめ、企業や支援機関から講師を招いて、産学官連携による医療用具・機器などの研究・開発・実用化の事例等について講演をいただきました。

平成 21 年度は、会員募集を開始し、具体的な産学官連携を進めてまいります。



(5) 各種展示会出展報告

① イノベーションジャパン 2008

開催日：平成 20 年 9 月 16 日～18 日

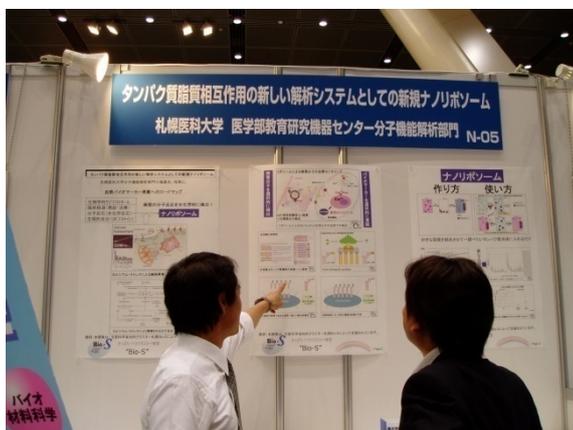
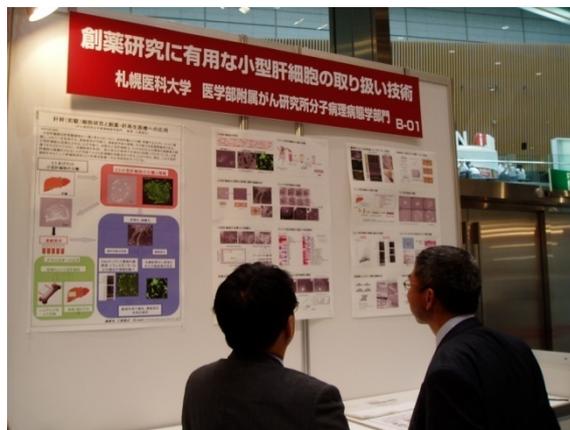
場 所：東京国際フォーラム

出展テーマ（参加者）

- a. タンパク質脂質相互作用の新しい解析システムとしての新規ナノリポソーム
（教育研究機器センター・分子機能解析部門 小海康夫 教授）
- b. 創薬研究に有用な小型肝細胞の取り扱い技術
（附属がん研究所・分子病理病態学部門 三高俊広 教授）
- c. 老化皮膚の若返り治療剤
（医学科臨床医学部門講座・皮膚科学講座 小野一郎 准教授）
- d. 附属産学・地域連携センター展示ブース
（附属産学・地域連携センター 上田、一瀬、小野寺、佐藤）

毎年、東京で開催されるイノベーションジャパンには、約 400 前後の大学、研究機関、ベンチャー企業などの団体がブースを出展し、期間中には 4 万人前後の来場者を数える、大規模な産学官のマッチングイベントです。本学は 2006 年度には研究紹介 1 ブース、2007 年度には研究紹介 1 ブースとセンター活動紹介ブースの 2 ブース、2008 年度には研究紹介 3 ブースとセンター活動紹介ブースの合計 4 ブースを出展いたしました。

本イベントは多くの企業関係者との交流を進める良い機会となっており、今後とも本学の研究シーズの出展、紹介を積極的に進めてまいります。



② ビジネスEXPO 2008

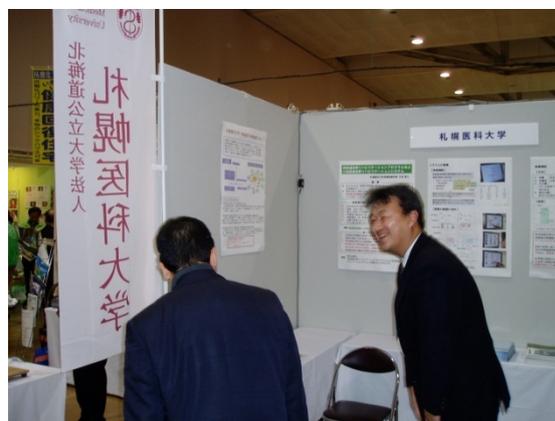
開催日：平成 20 年 11 月 13 日～14 日

場 所：アクセスサッポロ

出展テーマ（参加者）：前頭連合野リハビリテーションプログラムおよび前頭連合野リハビリテーションシステム
（保健医療学部 竹田里江 助教）

平成 20 年度のビジネス EXPO には保健医療学部作業療法学科竹田里江助教の「前頭連合野リハビリテーションプログラムおよび前頭連合野リハビリテーションシステム」の展示、実演を行いました。これは、認知症患者の前頭連合機能の改善のための訓練プログラムで、タッチパネル式 PC を用いた実演には多くの来場者が訪れ、竹田助教の実演、解説に聞き入っていました。

また、例年同様、本学の他の研究シーズやセンターの活動など、センタースタッフがブースにて来場者に説明を行いました。今回も会場にはのべ 18,000 人の来場者があるなど、大変活況を呈しておりましたが、センターでは毎年継続的に本イベントに出展することで、道内企業等との連携を推進していきます。



③ 次世代医療システム産業化フォーラム

開催日：平成 20 年 6 月 13 日

場 所：大阪商工会議所

発表テーマ（参加者）：指動脈弾力指数（FEI）による細動脈硬化簡易評価法とその応用可能性
（医学部心理学教室 田中豪一 准教授）

大阪商工会議所が主催する次世代医療システム産業化フォーラムは、産学連携による医療、研究機器の開発を促進するために設置され、平成 15 年度から毎月定期的にフォーラムを開催しています。

平成 20 年度には本学医学部心理学教室田中豪一准教授から「指動脈弾力指数（FEI）による細動脈硬化簡易評価法とその応用可能性」について発表を行い、関連メーカーとのマッチングを行いました。本フォーラムは、医療機器、情報、精密機械、化学など多岐にわたる分野から、全国のベンチャー・中堅・中小企業から大企業まで様々な企業と、大学・研究機関、医療機関などが参加しており、今後も機器開発に関する本学の研究シーズの発表を行うことで産学連携による共同研究、共同開発の機会を探っていきたいと考えています。

④ 新技術説明会

開催日：平成 20 年 12 月 19 日

場 所：アイリス愛知（名古屋市）

発表テーマ（参加者）：老化皮膚の若返り治療剤

（医学部皮膚科学講座 小野一郎 准教授）

独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する新技術説明会は、大学の研究成果の実用化を促進するために、大学別、分野別に研究シーズの紹介を行い、企業との共同研究や技術移転の機会を探る催しです。

平成 20 年度の「健康・長寿関連新技術説明会」では、JST から推薦を受け、イノベーションジャパンで紹介した本学医学部皮膚科学講座、小野一郎准教授の「老化皮膚の若返り治療剤」について小野准教授から発表を行いました。

新技術説明会で本学の研究シーズを紹介したのは初めての試みとなりましたが、活発な意見交換がなされ、その後企業等からの問い合わせが入るなど好評を得ました。

(6) セミナー開催報告

① 医工農連携セミナー

開催日：平成20年11月7日

場 所：帯広畜産大学原虫病研究センター PKホール

内容（プログラム）

- ・「伴侶動物におけるガン治療の現状とこれから」
帯広畜産大学 臨床獣医学研究部門 嶋田照雄 教授
- ・「ガン免疫を土台とした学学融合および産学連携研究」
札幌医科大学 分子研究部門 加藤和則 准教授
- ・「伝統医学とバイオメディカル技術による機能性の食品開発」
北見工業大学 国際交流センター長 山岸 喬 教授
- ・「ライフサイエンス系の特許について 札幌医科大学の事例に触れながら」
札幌医科大学 附属産学・地域連携センター副所長 石埜正穂 准教授

帯広畜産大学、北見工業大学共同で最新のガン研究をテーマにした「医工農連携セミナー」を帯広畜産大学で開催しました。帯広畜産大学からは最近問題となっている伴侶動物（ペット）のガン治療の現状と展望、本学からは学学融合および産学連携によるガン免疫の研究、北見工業大学からは伝統医学と工学的視点からの機能性食品開発に関する内容について、それぞれの研究者から紹介を行いました。

また、センターの石埜副所長からは、ライフサイエンス分野の研究の実用化に必要な特許取得戦略について、本学の事例に触れながら紹介しました。

本セミナーは、異分野の研究者、学生が交流することで新しい共同研究の機会を作ることを目的に開催しましたが、会場の帯広畜産大学の教職員、学生からは活発な質疑応答がなされ、異分野交流を進める有意義なセミナーとなりました。



② 熱中症フォーラム

開催日：平成 20 年 8 月 9 日

場 所：ホテルライフオーブ札幌

内容（プログラム）

○ 第一部 環境と温暖化の部

- ・ 環境問題としての地球温暖化
元NHK気象キャスター 村山貢司氏
- ・ 温暖化による北海道への影響
東海大学 生物理工学部 南秀樹 准教授
- ・ 温暖化と健康問題
札幌医科大学 医学部 山陰道明 講師

○ 第二部 温暖化と熱中症の部

- ・ 温暖化と熱中症
国立環境研究所 環境健康研究領域 小野雅司 室長
- ・ 熱中症予防対策の現状と問題
中京女子大学 健康科学部 朝山正巳 教授
- ・ 北海道でも頻発する熱中症
小樽商科大学 商学部 花輪啓一 教授

熱中症の研究で実績のある小樽商科大学が主催し、本学と東海大学が共催参加した本フォーラムは、「サミットの成果を踏まえて温暖化を考える」をテーマに開催されました。第一部では温暖化が及ぼす環境問題について現場からの報告と研究内容について紹介が行われ、本学からは医学部麻酔科学講座の山陰講師による温暖化と健康問題について、臨床現場からの報告が行われました。

また、第二部では北海道で見逃されがちな熱中症の現状やその課題を中心とした報告が行われました。

参加者は主に中等教育機関の関係者で、屋外の活動が増える季節を迎えることもあり、発表に熱心に聞き入る姿が見られました。



③ 札幌医大・小樽商大・室蘭工大合同企画フォーラム

開催日：平成 21 年 2 月 21 日

場 所：室蘭市 中嶋神社「蓬峯殿」

テーマ：「地域社会における医療、介護、福祉の最前線」

内容（プログラム）：

- 開会挨拶 室蘭工業大学 学長 松岡 健一
- 基調講演
 - ・「地方暮らしの幸福基準～安心の医療・介護とは～」
小樽商科大学商学部 片桐 由喜 教授
 - ・「医療と地域貢献について」
市立室蘭総合病院 院長 近藤 哲夫
- 特別講演 テーマ「大学連携における地域貢献について」
札幌医科大学 今井 浩三 学長
- 小樽商科大学の役割
小樽商科大学 山本 眞樹夫 学長
- 地域への報告
 - ・「感性工学からのカウンセリング支援」
室蘭工業大学 情報工学科 魚住 超 准教授
 - ・「新世代型リハビリテーション構築のための応用神経科学研究～医工・産学連携の視点から～」
札幌医科大学 保健医療学部 金子 文成 准教授

本フォーラムは、本学と室蘭工業大学、小樽商科大学の3大学が合同で企画いたしました。このような3大学による合同企画フォーラムは、平成18年に本学で開催された地域貢献セミナーを第一回目とすると今回で第二回目にあたります。

開催当日は、2日前から続いていた降雪による交通機関の乱れのため、予定より15分繰り下げてフォーラムを開始しましたが、会場はほぼ満席で、室蘭市内の一般市民、医療関係者、看護学校学生等およそ180名以上の参加をいただきました。

本フォーラムにより、「地域社会における医療、介護、福祉の最前線」をテーマに、各大学の取り組みや役割などについて、広く発信することができました。また、これまでの取り組みの成果として、本学と室蘭工業大学から地域医療に関連する研究成果・取り組みについて報告されました。



④ 北海道医療産業研究会 セミナー

札幌医科大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、北海道立工業試験場が連携して設立した北海道医療産業研究会（平成20年7月18日設立）は、「医療関連産業への進出のポイントを探る」をメインテーマに、3回のセミナーを開催しました。

各回、企業、大学、支援機関等からの40名以上の参加があり、活発な質疑応答をいただきました。今後の研究会の産学官連携による支援活動にご期待ください。

- 第1回セミナー 日時：平成20年11月12日
 - ・「医療機器の開発と薬事制度」
札幌医科大学附属産学・地域連携センター副所長 石埜 正穂 准教授
 - ・「医療関連ものづくり交流会 in 山梨」
山梨大学地域共同開発研究センター 菅原 幸雄 文科省産学官連携コーディネーター
- 第2回セミナー 日時：平成21年2月10日
 - ・「地域中小企業の医療・福祉機器分野への進出と医工連携人材育成」
(財)神戸市産業振興財団 理事 産学連携推進コーディネーター 永井 千秋 客員教授（神戸大学）
 - ・「医療機関のニーズと当社の取り組みの現状」
株式会社ムトウ 本店第一営業部 執行役員部長 関根 敏美 氏
- 第3回セミナー 日時：平成21年3月24日
 - ・「現場・地域に根ざした福祉機器開発とは？ ―機器を導入する利点と課題―」
東京大学先端科学技術研究センター 人間情報工学分野 田中 敏明 特任教授
 - ・「札幌医科大学の病院ニーズ発掘の取り組みの事例紹介」
札幌医科大学附属産学・地域連携センター 産学連携コーディネーター 一瀬 信敏 助教



⑤ 医薬・創薬関連産業活性化セミナー

日時：平成 21 年 3 月 10 日

場所：札幌医科大学 記念ホール

テーマ：医療・創薬関連産業活性化セミナー ～札幌医科大学と北海道バイオ企業の連携を目指して～
内容（プログラム）：

- 開会挨拶 北海道経済部商工局産業振興課 課長 辻泰弘
札幌医科大学附属産学・地域連携センター 所長 三高俊広
- 第 1 部 先端研究活用講演会
 - ・「エピジェネティクスを標的としたがんの診断・治療法の開発～早期診断と発がんリスク予測への応用～」
医学科基礎医学部門講座・生化学講座 豊田実 教授
 - ・「医療・創薬関連開発と大学～札幌医大を例として～」
附属産学・地域連携センター 副所長 石埜正穂 准教授
- 第 2 部 研究シーズ講演会
 - ・「細胞からヒトへー機能成分の評価系構築を目指して」
教育研究機器センター・分子機能解析部門 小海康夫 教授
 - ・「食品および生体の新しい抗酸化能評価システムの開発」
医療人育成センター 藤井博匡 教授
- 第 3 部 個別技術情報交換会
札幌医科大学側講演者の研究概要を掲示。参加企業と講演者との交流の機会を提供致しました。
また、情報交換の要望のあった参加企業と研究者間の今後の協力関係構築のきっかけづくりとして、個別の技術情報交換を行いました。

本セミナーは、本学と北海道、ノーステック財団、北海道バイオ産業クラスターフォーラム、北海道経済産業局が連携して、北海道のバイオ関連企業を対象に開催しました。開催当日は、40 名以上の参加があり、個別技術情報交換会では、企業 5 社と本学研究者の技術情報交換を行いました。

また、本セミナーは、より着実な地域産業の活性化のきっかけづくりを意識して企画され、セミナー開催の 5 カ月前から、バイオ産業クラスターフォーラム参加企業へのアンケートや聞き取り調査を実施し、道内バイオ企業の札幌医科大学研究者への要望を調査し、企業ニーズを把握した上で、個別技術情報交換を行いました。



⑥ 科研費申請書作成レクチャー（学内向け）

テーマ：『科学研究費補助金申請ノウハウ』

第1回

開催日：平成20年9月29日

場 所：札幌医科大学教育北棟 北第一講義室

講 師：内科学第一講座 篠村恭久 教授

参加者：学内教員・研究者 51名

第2回

開催日：平成20年10月7日

場 所：札幌医科大学教育北棟 北第二講義室

講 師：神経精神医学講座 齋藤利和 教授

参加者：学内教員・研究者 34名



3年目の実施となる本レクチャーですが、今年度は2回開催し、学内若手教員を主として85名の参加がありました。講師の篠村教授・齋藤教授から応募書類作成に当たっての注意点やコツ、応募に当たっての心構えなど、熱のこもった講演を行いました。本レクチャーを開催することにより、全学的な競争的資金獲得へのモチベーションの向上や応募書類の質的向上を期待しています。本レクチャーは毎年実施する予定です。